



新春のご挨拶

圭陵会会長 赤坂 俊英

新年明けましておめでとうございます。圭陵会員の皆様も新しい年をゆっくりとお過ごしと思います。新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの蔓延が大分落ち着いてきたもののまだ続いては居りますので、忘年会や新年会も控えめにとの風潮にあります。昨年の圭陵会総会では現地に来られる先生方が増え、顔を拝しながらの会議開催で嬉しく思います。しかし、日本では物価高騰と医療費削減の方針の中で医療業界は、医療職の働き方改革もあり大変な状況にあります。

今年の春4月には我が母校の岩手医科大学は私立岩手病院設立から128周年、また、母校の同窓会として創立された圭陵会は93周年を迎えます。さらに、圭陵会の中に歯学部同窓会、医学部同窓会が創立され46年が経過し、ここ1年以内に薬学部同窓会と看護学部同窓会が加わり大きな同窓会組織となります。つまり大きく変化する圭陵会も会則や活動内容も時代に即した変革が求められます。これまで医学部と歯学部が仲良く運営してきた圭陵会に、薬学部と看護学部が加わり、この4学部が連携しながら纏まり仲良く今まで以上に大きな力で母校の応援をして行きましょう。

更にこの4学部を卒業した方々が、全国に散らばって医療提供にあたりますので、その活躍の様子を見るために、全国の圭陵会77支部に圭陵会の幹部の方々に各支部を訪問して頂き各支部の状況を把握するとともに、母校の状況も報告して参ります。

昨年3月に我が母校の発展、経営に多大な貢献された小川彰前理事長が亡くなられ、荘厳な大学葬が行われました。現在は祖父江新理事長が小川前理事長の遺志を受け継いで母校の運営にあたっております。圭陵会は今まで同様に母校の応援にあたります。

矢巾キャンパスには2000名の学生が勉学し、矢巾本院の医師・看護師・技術士を含むと3000人が勤務し、1000床の患者を管理治療する北東北・北海道で最大規模、医療提供内容も最先端治療の病院です。各学部の学生は圭陵会の準会員であり、学生にも圭陵会の存在を認識して頂く様に努力し、学生教育や学術研究への応援・援助も引き続き圭陵会が行います。

最後に、圭陵会はあくまでも母校岩手医科大学の応援団・支援団体の同窓会であり、大学および附属病院の経営や運営方針に口出しはしません。しかし、母校に対する応援と様々な要望はして行きます。内丸地区の1号館を残し内丸メディカルセンターの充実を図るとの要望がありますが、まだまだ多くの資金援助が必要になりますので、圭陵会員には更なる母校への応援をお願いして新春の挨拶に代えさせていただきます。



謹賀新年

学校法人岩手医科大学 理事長 祖父江 憲 治

明けましておめでとうございます。今年は例年になく好天にめぐまれた三ヶ日で、圭陵会の先生方におかれましては、御家族ご一緒のおだやかな新年を迎えられましたことと、お慶び申し上げます。

国際的には数年来続いてきましたウクライナ紛争が、年を過ぎ僅かに減少している感がありますが、まだ安心できません。シリアでは突然アサド政権が崩壊し、今後の平和な新国家立ち上げが期待される所です。その他、各国では依然として武力衝突が続く年明けとなりました。

国内に目を向けましても、政権の不安定さを含め、未だ行く先が見通せません。しかし、これ迄の一強による強引な政治ではなく、かつては大政党と言えど党内野党が存在し、パワーバランスの中で大いに論争を繰り返してきたはずです。それを考えますと、今の状態が我が国の本来あるべき政治の姿に近いのかもしれませんが。最近国内を賑わしていますのは感染症の蔓延です。新型コロナウイルス感染症はもう過去の事のように思いがちですが、ここ半年近くに亘り岩手県は全国で発症率第二位を維持するというあまりありがたくないうちの栄誉を背負っています。インフルエンザは御承知の通り、全国に大蔓延しています。感染が拡大することは、ウイルスの変異株の出現頻度を増加させることにも繋がります。さらに今後未知の新興感染症の発症予防も含めて、まずは足元の災いから絶っていくことが大切だと思います。

圭陵会の先生方におかれましては、日頃より岩手医科大学に対する多大なる御理解と御支持さらに御支援を賜り、心より感謝申し上げます。昨年、圭陵会代議員会等における出席会員からの発言に係る説明会（圭陵會々報 2024 年 9 月号 第 384 号 31 ページ～参照）にてお伝えしましたように、矢巾新病院建設とそれに伴う新鋭医療機器購入に伴う銀行からの 200 億円借入金は順調に返済しており、今後十年余で完済する予定です。現在大学が苦慮致しております財政危機は、財務収入に対す

る支出の割合が大きく、支出過多に傾いていることです。現在、これに対してコンサルタント会社のアドバイスも受けながら、経営改善に取り組んでいる所であり、この結果は近々に報告させていただきます。

さて、いよいよ入試シーズンに入りました。医学部は例年通り好調です。歯学部、薬学部、看護学部はまだ集計が終わっておらず、結果待ちという状態ですが、歯学部と薬学部では奨学金制度など大幅改革の成果が挙がる傾向にあり、結果を期待しています。

医、歯、薬、看護四学部の国家試験も近づいてまいりました。最近各学部とも現役生の合格率は上昇しており、浪人受験生の今後の奮闘と修学支援の成果を期待する所です。国家試験対策や修学支援につきましても、圭陵会の先生方に御支援頂いております事に、改めてお礼申し上げます。

また、学部によりまして 2 年ルールを見直すこととし（2 年留年したら退学）、本年度より施行しております。これはより多くの学生諸君が卒業し、国試受験に臨むことを可能とするものです。まだ試みの段階ですが、結果を見ながら漸次対象学部も拡げていきたいと思っています。入学から卒業、医療人へと本学本来の目的である医療人教育へ向け、今後とも努力し、より多くの医療人を本学から輩出する工夫をしてまいります。

これまで本学運営に必要な資金は、医療収入と学納金収入の 2 本立てに依存してきました。本学は医・歯・薬・看護という医療に特化した医療系総合大学です。この特色を生かし、新たな医療イノベーションを開発・発展させる予定です。これは従来の医歯薬総合研究所を改組し、イノベーションに特化した研究センターとするものです。これにより教育、研究、診療の橋渡しとなると共に、第 3 の収益源の確立を目指してまいります。

今後とも、まだまだ多難な道ではありますが、圭陵会諸先生方の御指導を仰ぎながら、一步一步改革に向け歩んでまいります。



新年のご挨拶

岩手医科大学 学長 小笠原 邦 昭

新年、明けましておめでとうございます。圭陵会の皆様方におかれましては、御家族の皆様と健やかな新年を迎えられましたことと、心よりお慶び申し上げます。

昨年は学校法人岩手医科大学の現役理事長でありました小川彰先生がご逝去されました。圭陵会は悲しみに包まれました。個人的にも40年間にわたり師事した師匠の死は受け入れがたいものでした。しかし、悲しんでばかりはいられません。小川彰先生の意味を継いで、使命である学校法人岩手医科大学の歩みを進めていく所存です。

昨年の学長就任の抱負でも述べたように、本学は大学でありますので、研究は必須であります。私の主観では、現在の岩手医科大学の研究の発信元は医歯薬総合研究所の各部門であることが多く、当大学の研究を発展させるためには、ここを発展させることが、最も合理的ではないかと考えます。本来医歯薬総合研究所は各学部と乗り入れし、共同して研究成果をあげるために作られた部門であります。しかし、共同研究を行っている部署はわずかであり、もったいなさを感じます。医歯薬総合研究所を抜本的に見直し、研究のためのプラットフォームとし、看護学部も含めた本来の総合研究所として、各学部、各部署との共同研究を行い、科研費も含む公的競争研究費の獲得、企業との共同研究をしていただきたいと思います。さらには、企業との共同研究を社会実装し、学校法人としての運営資金獲得まで考えております。

矢巾附属病院、内丸メディカルセンターの改革、改変はすでに始まっております。稼働額の増加、コストの削減に関しては、まだまだできることが多くあり、これを着実に実行いたします。しかし、この実行には多くの既成概念の打破が必要です。各部署がこれまで作ってきた方法を180度変えな

ければならないこともあります。病院職員には、すでに多くの努力をいただいておりますが、圭陵会の皆様方におかれましても引き続きご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

医療系大学の教育に関し、私は「研究と臨床のやり方を教育する」ことだと述べてきました。「確かな研究基盤とすぐれた臨床を行う場がなければ、教育はできない」という信念があります。もちろん教育の対象は学部学生のみならず大学院生および若手医療者も含みます。しかし、現実的には医療系大学は国家試験の合格率で世間からは評価されます。この点を十分ご理解し、日夜学生指導に注力されている教員・職員の皆様には頭が下がります。一方で、現在の少子高齢化と高い大学進学率のなかで、「国家試験の合格度を格段に上げる」魔法はありません。「われわれが入学させた学生を留年させず、卒業させる」ことを着実に進めることしか方法はないと考えます。

学長に就任しまだ1年もたっていませんが、大事にしてきたことがあります。それは「現場主義と情報開示」です。「なるべく現場から情報を集め、何をすれば現場がよくなるのか？」を考え、「問題点があれば、解決方法とともに開示する」ことです。この方針は今後も継続するつもりです。加えて、政治・行政の流れを理解することです。この流れにそのまま乗るつもりはありませんが、世の中の流れを見誤ると、危機に陥ることは明白です。この辺は十分注視していきたいと思います。

現在、学長投書を運用中ですが、多くの方に私が気づかない問題をご教示いただいております。皆様と一緒にこの大学をよくすることだけを考え、努力していきたいと思います。圭陵会の皆様方におかれましては、ご支援、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。